

大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民の皆さんにお伝えします！



大槌高校のnoteでも
行事などの様子を
発信しています！

ようこそ大槌高校へ！ 対面での「他校交流会」

大槌高校は、毎年多くの高校から「生徒交流会」の依頼を受け、コロナ禍においても、オンラインを活用した交流の機会をできるだけつくってきました。しかし、現在在籍している生徒は、全員がコロナ禍以降に入学しており、対面での交流をほとんど経験していません。そのような中、これまでも繋がりのあった大阪府立桜塚高等学校と、山形県立小国高等学校との対面での交流会を、10月と11月に実施することができました。両校ともに、事前にオンラインでの交流を経て関係性を築いた上で、来校していただきました。今回は2校との交流会の様子を紹介します！



大阪府立桜塚高等学校との交流

10月5日（水）に、大阪府立桜塚高等学校の生徒会執行部の生徒をはじめとした13名が来校し、大槌高校の生徒会執行部の生徒9名と交流しました。大槌高校と桜塚高校は、2011年に桜塚高校の生徒が復興支援ボランティアで大槌町を訪れたことをきっかけに「さくら協定」を結び、それ以降継続的な交流を重ねてきました。ここ数年はコロナ禍の影響でオンラインでの交流が続いていましたが、今回は久しぶりの対面での交流が実現しました。



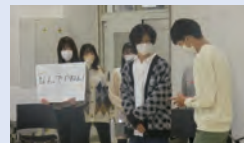
事前のオンライン交流の様子

事前にオンラインでの交流を2回実施し、お互いの自己紹介や学校紹介を行いました。桜塚高校の生徒の中には、大槌高校の防災に関する取り組みに興味を持っている生徒が多く、復興研究会の活動の紹介を行うことによって、理解を深めてもらいました。



10月5日（水）の交流会の様子

大槌高校と桜塚高校それぞれが、お互いの地元についての紹介を行いました。大槌高校の生徒からは、「大槌町のいいところ」というお題に対して「地域の人々が温かく、やりたいと思ったことを応援してくれるところ」という発言が出ていました。桜塚高校は、関西弁の使い方を寸劇で披露し、会場全体が笑いに包まれて大いに盛り上がりました。



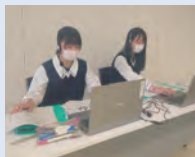
山形県立小国高等学校との交流

11月9日（水）に、山形県立小国高等学校の2年生19名が修学旅行の一環で来校し、大槌高校の2年生58名と交流しました。小国高校とは、2020年から三陸みらい探究の授業内でオンラインを活用した連携を継続的に行っていて、毎年2年生の生徒同士が交流してきました。対面での交流もこれまでに何度か計画されていましたが、コロナ禍の影響で中止になる状況が続き、今回ようやく実現することができました。



オンライン探究連携の様子

今年度の連携授業はこれまでに3回行い、興味や関心が近い生徒同士で、お互いの探究学習についての情報交換を重ねてきました。そうした時間を通じて関係性もできてきたために、多くの生徒が対面での交流を心待ちにしていました。



11月9日（水）の交流会の様子

大槌高校と小国高校がそれぞれワークショップを準備し、8つのグループに分かれて実施しました。大槌高校からは、津波発生時の自身の避難行動に関する考えを共有する「クロスロードゲーム」を行いました。海がない環境で暮らす小国高校の生徒の考えに対して、異なる価値観から学びを得ようと真剣に耳を傾ける大槌高校生の姿が印象的でした。

